

## 受講者からの質問と回答【名古屋会場】

2月4日に名古屋で開催いたしました wallstat マスター登録講習会において、受講された皆様にアンケートにご協力いただきました。

その中でご質問として上がっていました記述（一部）について、以下にご回答を掲載いたします。

なお、質問と回答については、情報交換サポートサイト FAQ にも掲載いたします。

注）回答内にあるページ数はユーザーズマニュアルのページ数となります。ご参照ください。

### 〔wallstat の入力〕

**Q 通し柱の入力は立面図で入力しないといけないのか。**

A 平面で柱を選択すると「仕様選択」の「種類」に通し柱のチェックボックスが現れます。

☒を入れると柱が入力された階とその上階の通し柱となります。

マニュアル P.17 に記載があります。

**Q 屋根形状の反映の仕方を知りたい。**

A 意匠 3 次元 CAD で屋根入力されたデータを CEDXM で連携させると屋根定義ファイルが作成され反映されます。

意匠 CAD からの CEDXM 連携を利用しない場合は、origin にて屋根を表示させることが可能です。

屋根定義ファイル"roof.csv"を作成し origin の"Show Result"で trj ファイルを読み込む際に、Roof も読み込むと表示されます。

origin フォルダに入っているユーザーズマニュアル拡張機能編 P.15 に記載があります。

**Q 自社仕様の入力・標準仕様設定方法**

A 「設定」→「パラメータ設定」から、各種パラメータを設定することができます。耐力壁や金物の実験データからポイントとなる数値を読み取って設定する必要があります。

また、studio フォルダの中の"パラメータ変換.xlsx"で実験データからパラメータを設定して"parm.csv"に登録することもできます。

マニュアル P.70～81 に記載があります。

標準仕様設定は、「設定」→「標準仕様設定」から設定することができます。

各部材を入力した際の初期値を変更することができ、自社仕様で標準的に使われる仕様

をあらかじめ設定できます。標準仕様設定を変更後、保存しておくことで次回 wallstat 起動時も情報が保持されます。

マニュアル P.8 に記載があります。

**Q 複雑な小屋組みのモデル化**

A wallstat では屋根は原則陸屋根に変換してモデル化をします。全面切妻のような簡単な小屋組の場合にはモデルできる場合がありますが、複雑な小屋組は wallstat studio ではモデル化は難しいです。

Q origin はより詳細入力ができるものという認識でよいのでしょうか。

A ご認識の通りです。

**〔その他〕**

Q 土壁について。既存の土壁で梁まで壁も小舞竹も到達していない場合はどう考えればいいですか？

A 既存の土壁で梁まで壁も小舞竹も到達していない場合は、耐力として見込むのは避けてください。

上部が開口になっていることで、全面土塗り壁と比較して耐力が大幅に下がります。

天井高や小壁高さ、下地の組み方等の仕様によっても変わるため適切に評価するには同じ仕様で実験をする必要があります。

**Q 接合部、部材のせん断特性と解析方法への関与**

A 接合部、部材のせん断は剛としてモデル化されます。応力の伝達は行いますが、せん断変形は生じません。

Q 筋かいも既存の釘打ちのみで留めてあるものと金物固定では耐力差が生じると思いますが、どのように考えればいいですか。

A 釘打ちのみの筋かいを適切に評価する場合には同じ仕様で実験データが必要になります。

以上